

かなう
小西 和

小西 和 (個人蔵)

つよし
田村 剛

つよし

内海の価値を
訴えた人々

郷土の先人の功績や思想、文化を学び直す「リレー・シンポ『輝ける讃岐人(ひと)』」。第4回は「瀬戸内海国立公園」指定の立役者2人を取り上げる。

さぬき市に生まれた小西和^{かなう}。1911(明治44)年、多くの島々で構成される瀬戸内海の魅力を『瀬戸内海論』として発表。衆議院議員になって、内海を国立公園として後世に残すべく活動。日本初の国立公園「瀬戸内海国立公園」指定に尽力した。また、地域の人々の憩いの場となっている地元の県立亀鶴公園、宇佐神社にサクラの苗木2500本を献木したほか、北海道の開拓・農場経営などにも大きな足跡を残した。

倉敷市に生まれた田村剛^{つよし}は、1920(大正9)年内務省嘱託となり、国立公園制度の創設に指導的役割を果たし、「国立公園の父」と呼ばれている。制度趣旨に関して、保護を重視し利用に消極的な立場に対し、利用を進める立場をとった。日本における造園学の草分けとしても知られる。国立公園協会、日本自然保護協会、海中公園センターなど各公益法人の設立に参画。理事長、会長として自然保護をリードした。

日時 令和4年7月10日(日) 開場▶12:30 開演▶13:00 (予定)

会場 能楽堂ホール tenjin9 (岡山市北区天神町9-24)

定員 150名(事前申込不要、会場先着順) **入場無料**

新型コロナウイルスの状況により、定員は前後する可能性があります。



講師

関西学院大学総合政策学部教授
佐山 浩 (さやまひろし)

主に国立公園の戦後史や持続可能な地域社会を研究している。1982年筑波大学卒業後、環境庁に入庁。屋久島など国立公園や世界自然遺産の管理業務に従事。2013年より現職。博士(工学)、技術士(環境部門)、潜水士、公害防止管理者(水質1種)。著書に『国立公園と風景の政治学』『47都道府県・花風景百科』など。日本造園学会賞(著作部門)、同学会田村剛賞を受賞。

演題 「小西和の人物像と『瀬戸内海論』」

奈良県立大学地域創造学部教授
水谷 知生 (みずたに ともお)

専門は景観保全、観光史。主に、国立公園の成立史など自然と人との関係史を研究している。1985年京都大学卒業後、環境庁に入庁。主に、国立公園・野生生物など自然環境保全関係の業務に従事。2016年より現職。博士(学術)、技術士(環境部門)、測量士。著書に『国立公園と風景の政治学』『47都道府県・花風景百科』など。

演題 「昭和初期の国立公園指定と瀬戸内海」

問い合わせ

(公財)山陽放送学術文化・スポーツ振興財団

e-mail sanyohoso-zaidan@rsk.co.jp
TEL 086-225-2770 FAX 086-225-5525

新型コロナ対策 岡山県の基準に沿った対策を実施します。ご協力をお願いします。詳しくは財団ホームページ。

- 来場者のマスクの義務化(各自ご持参ください)
- 37.5度以上の熱、風邪症状のある方(同居家族含む)は入場をご遠慮ください。